

鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 27 年 5 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
鶴見岳・伽藍岳は活火山であることに留意してください。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 5 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1）

鶴見岳監視カメラ（大分県）による観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2）

火山性地震は A 型地震¹⁾ が 2 回（4 月：3 回）、B 型地震²⁾ が 1 回（4 月：なし）発生しました。

火山性微動は観測されませんでした（4 月：なし）。

・地殻変動の状況（図 3、図 4）

GNSS³⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

- 1) A 型地震は P 波、S 波の相が明瞭で比較的周期の短い地震で、一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊によって発生していることが知られています。
- 2) B 型地震は相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。
- 3) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 27 年 6 月分）は平成 27 年 7 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図1 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳・伽藍岳の状況
（5月20日、鶴見岳監視カメラ（大分県）による）

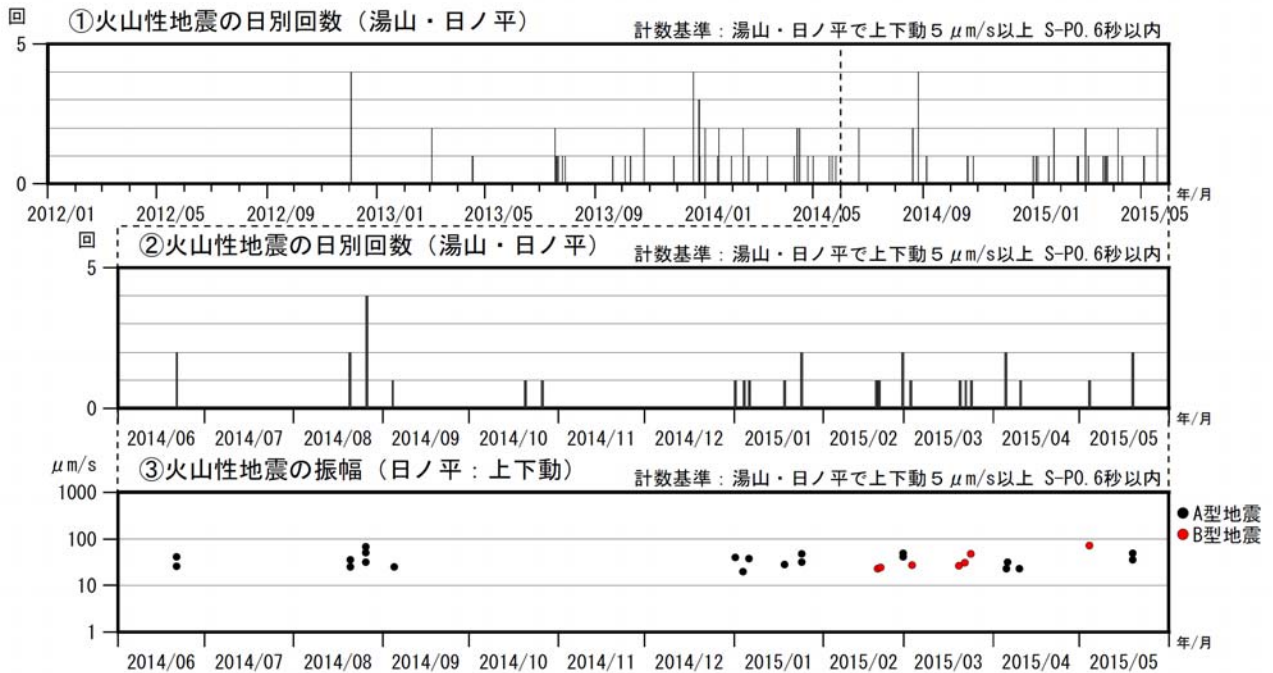


図2 鶴見岳・伽藍岳 火山性地震の日別回数と地震振幅（2012年1月～2015年5月）

< 5月の状況 >

火山性地震はA型地震が2回（4月：3回）、B型地震が1回（4月：なし）発生しました。
火山性微動は観測されませんでした（4月：なし）。

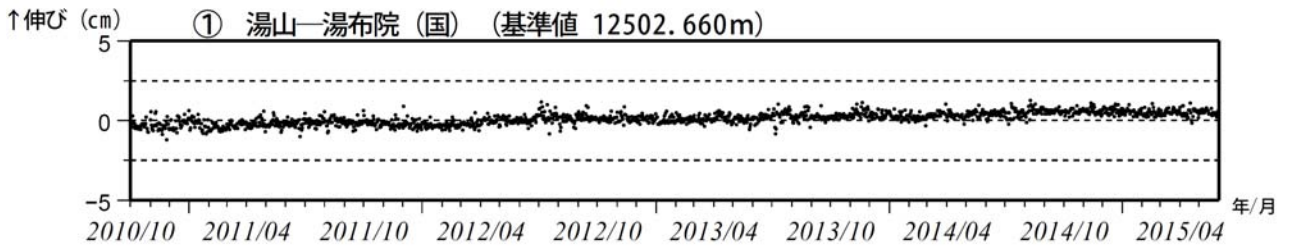


図 3 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2015年5月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図4の①に対応しています。

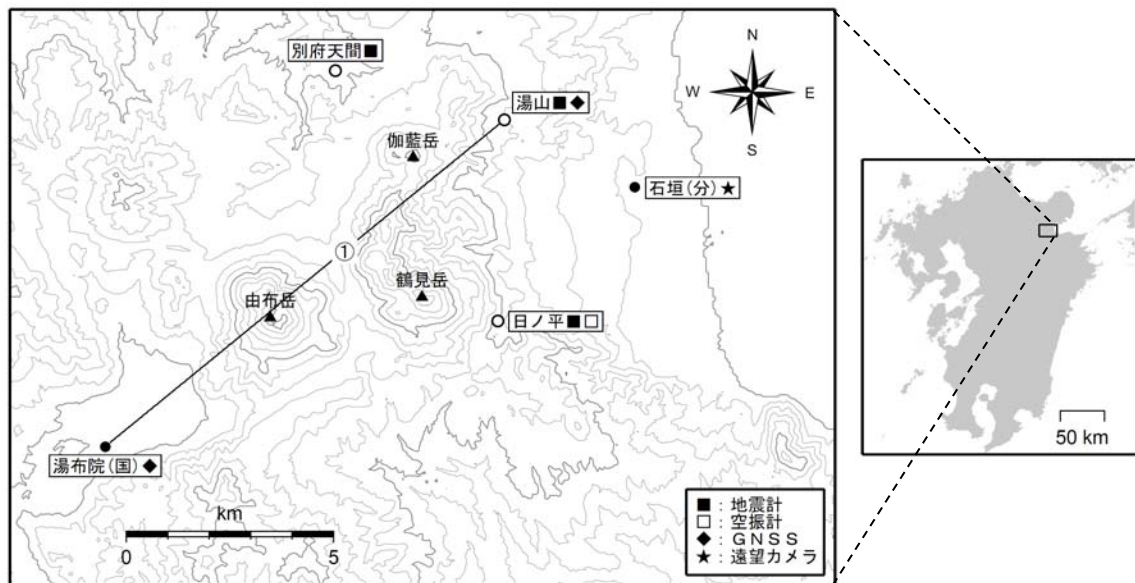


図 4 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（分）：大分県

遠望観測点「石垣（分）」は鶴見岳監視カメラ（大分県）を示しています。